〔調査報告〕

福永光司蔵書整理に当たって

The Report of Classifying Hukunaga Mitsuji's(福永光司) Collection of Books

鄧　紅　神戸輝夫①　秦　みつよ②
Deng Hong　Kanbe Teruo　Shin Mitsuyo

2006年私どもは大分県中津市教育委員会から依頼されて、晩年中津市に在住して、晴耕雨読の生活を送っていた著名な中国思想史研究者、道教思想の研究の第一人者といわれる人物福永光司（ふくながみつじ、1918年7月26日～2001年12月20日）の蔵書を整理し、目録を作りあげた。本稿はその蔵書整理記に当たるものである。

一　福永光司その人、その仕事

福永光司先生の略歴は次のようである。

一九一八年七月二十六日　大分県下毛郡鶴居村（いまの中津市）に生まれる
一九三六年三月　大分県立中津中学校　卒業
一九四〇年三月　広島高等師範学校文科第一部　卒業
一九四二年九月　京都帝国大学文学部哲学科（支那哲学史専攻）卒業　京都帝国大学大学院入学
十月一日　京都帝国大学大学院休学、現役兵として野砲兵第六聯隊補充隊（熊本）に入隊
一九四四年　陸軍砲兵少尉
一九四五年　陸軍砲兵中尉
一九四七年一月四日　中国広東省より復員
二月十四日　京都大学大学院に復学
三月三十一日　京都大学大学院退学　東方文化研究所（京都）助手
一九四八年　京都大学大学院特別研究生　（第一期、至一九五〇年三月三一日）
一九五〇年　京都大学大学院特別研究生　（第二期、至一九五三年三月三一日）
一九五一年四月　大阪府立北野高等学校講師
一九五二年四月　大阪府立北野高等学校教諭
一九五五年四月　愛知学芸大学講師
一九五八年十月　愛知学芸大学助教授
一九六一年四月　京都大学人文科学研究所助教授に配置換
一九六四年四月　京都大学大学院文学研究科担当
一九六九年十一　京都大学大学院文学研究科担当を免ずる

① 大分県文化財保存協議会の会長、大分大学名誉教授、放送大学大分センター長。
② 大分県立芸術文化短期大学図書館司書（2007年3月まで）

一九七〇年四月　京都大学大学院文学研究科担当
六月　京都大学人文科学研究所教授
一九七四年四月　東京大学文学部教授に配置換　中国哲学中国文学第三講座担任
京都大学人文科学研究所教授に併任
京都大学大学院文学研究科担当を免ずる
東京大学大学院人文社会科学研究科担当
一九七九年四月　東京大学文学部を定年退職
京都大学人文科学研究所教授に配置換
一九八〇年四月　京都大学人文科学研究所所長
京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター長を併任
一九八二年四月　京都大学人文科学研究所を定年退職、関西大学文学部教授
一九八六年三月三十一日　関西大学文学部を退職
一九八六年四月一日　北九州大学外国語学部教授
一九八九年三月三十一日　北九州大学外国語学部を退職
二〇〇一年十二月二十日　逝去、享年八十三

福永先生の主な著作は次のようである。

著書類

1．『荘子』 朝日新聞社（中国古典選）、一九五六年二月
2．『荘子－古代中国の実存主義』中央公論社（中公新書、三六）、一九六四年三月
〔中国語訳〕陳冠学氏訳　民国五八年、台北、三民書局
3．『荘子』（内篇・外篇・雑篇）朝日新聞社（新訂中国古典選、七～九）一九六六年四月・十月・六七年九月
同（内篇・外篇・雑篇）朝日新聞社（朝日文庫　中国古典選、十二～－十七）、一九七八年十二月
4．『老子』 朝日新聞社（新訂中国古典選、六）、一九六八年十月
同、 朝日新聞社（朝日文庫　中国古典選、十～十一）、一九七八年九・十月
同、 朝日新聞社（朝日選書、一〇〇九　中国古典選）、一九九七年一月
5．『中国思想について』富山県教育委員会（精神開発叢書五）一九六九年三月
6．『芸術論集』朝日新聞社（中国文明選、十四）一九七一年九月
7．『列子』 平凡社（中国古典文学大系、四）一九七三年六月
同、 平凡社（東洋文庫、五三三、五三四）一九九一年五月
8．『道教と古代の天皇制－日本古代史・新考』（共著）徳間書店、一九七八年五月
9．『大塩中斎校注』岩波書店（日本思想大系、四六）、一九八〇年五月
10．『道教と日本文化』人文書院、一九八二年三月
11．『道教と日本思想』徳間書店、一九八五年四月
12．『道教と古代日本』人文書院、一九八七年二月
13．『道教思想史研究』岩波書店、一九八七年九月
14．『日本の道教遺跡』（千田稔、高橋徹等共著）朝日新聞社、一九八七年十二月

15. 『中国の哲学・宗教・芸術』人文書院、一九八八年九月
16. 『老荘に学ぶ人間学－ビジネスマンの道（タオ）の哲学』 富士通経営研修所、一九九二年十二月
17. 『「馬」の文化と「船」の文化－古代日本と中国文化』人文書院、一九九六年一月
18. 『タオイズムの風－アジアの精神世界』人文書院、一九九七年五月
19. 『混沌からの出発－道教に学ぶ人間学　五木寛之』致知出版社、一九九七年五月
    同、　中央公論新社、一九九九年三月（中文庫、い一二十三～二十四）
20. 『宗教を考える』（八木誠一・ひろさちや共著）リブリオ出版、一九九七年十一月
21. 『飲食男女 老荘思想入門』河合隼雄と共著（聞き手）（朝日出版社 2002 年）
22. 『魏晋思想史研究』、岩波書店、二〇〇五年

編著書

『老子索引』 京都大学人文科学研究所、一九五〇年十月
『明佛論索引』 京都大学人文科学研究所、一九六三年三月
『理惑論索引』 京都大学人文科学研究所、一九六六年三月
『思想史』（中国文化叢書、三） 共編　大修館書店、一九六七年十月
『思想概論』（中国文化叢書、二） 共著　大修館書店、一九六八年四月
『五経・論語』（吉川幸次郎共編）筑摩書房、一九七〇年九月（世界文学全集三）
『気の思想－中国における自然観と人間観の展開』（小野沢精一、山井湧共編）東京大学出版会、一九七八年三月
〔中国語訳〕『気的思想－中国自然観和人的観念的発展』 李慶訳　上海人民出版社、
『最澄・空海』福永光司責任編集　中央公論社（日本の名著、三）、一九七七年五月
同、　中央公論社（中公バックス　日本の名著、三）、一九八三年六月
『道教と古代の天皇制』（上田正昭・上山春平編）徳間書店、一九七八年五月
『世界伝記大事典－日本・朝鮮・中国編』（共編） ほるぷ出版、一九七八年七月
『中国中世の宗教と文化』 京都大学人文科学研究所、一九八二年三月
『般若思想』（共編） 春秋社（講座・大乗佛教、二）、一九八三年
『道教と東アジア－中国・朝鮮・日本』 人文書院、一九八九年四月
『中国宗教思想』（共編） 岩波書店（岩波講座東洋思想、第十四巻）一九九〇年一月
『中国宗教思想』（共編） 岩波書店（岩波講座東洋思想、第十三巻）一九九〇年四月

学術論文

「荘周の遊に就て」『支那学』（十二－三・四合併号）、一九四六年十一月
「韓非子の人間論」『東洋の社会と文化』（一）、一九五〇年十一月
「司馬遷の人間観－主として利・義・天について」『東洋の社会と文化』（三）、一九五三年七月
「王充の思想について－王充と老荘思想―」『東洋史研究』（十二－六）、－九五四年一月

「郭象の荘子解釈一・二」『哲学研究』(四二四・四二五)、一九五四年六・七月
「封禅説の形成一・二」『東方宗教』(六・七)、一九五四年二月・五五年二月
「僧肇と老荘思想」 法蔵館『肇論研究』(塚本善隆編)、一九五五年九月
「支遁と其の周囲－東晋の老荘思想－」『佛教史学』(五－二)、一九五六年三月
「何晏の立場―その学問と政治理念」『愛知学芸大学研究報告』(七)、一九五八年三月
「阮籍における懼れと慰め」『東方学報(京都)』(二八)、一九五八年三月
「王羲之の思想と生活」『愛知学芸大学研究報告』(九)、一九六〇年三月
『謝霊運の思想』『東方宗教』(十三・十四合併号)、一九六〇年七月
「慧達文集(『慧遠研究』遺文篇)」 編訳注(一部共訳注) 創文社、一九六〇年二月
「郗超の仏教思想－東晋仏教の一性格」『塚本博士頌寿記念佛教史学論文集』法蔵館、一九六一年二月
「孫綽の思想－東晋における三教交渉の一形態」『愛知芸大学研究報告』(一〇)、一九六一年三月
「慧遠と老荘思想」『慧遠研究』研究篇(木村英一編)、創文社、一九六三年二月
「嵇康における自我の問題－嵇康の生活と思想」『東方学報(京都)』(三十二)、一九六二年三月
「中国の書芸術思想」『書学』(一三－八)、一九六二年八月
「陶淵明の眞について－淵明の思想とその周辺」『東方学報(京都)』(三十三)、一九六三年三月
「世説新語」『中国古小説集』筑摩書店(世界文学大系)、一九六四年一一月
「郭象の『荘子注』と向秀の『荘子注』－郭象窃盗説についての疑問」、
『東方学報(京都)』(三六)、一九六四年一〇月
「無為を説く人々『春秋戦国と古代インド』」『思想の歴史』(二)、平凡社　一九六五年五月
「中国における天地崩壊の思想」『吉川博士退休記念論文集』筑摩書房、一九六八年三月
「仏教信仰の要義(郗超「奉法要」訳)」塚本善隆『中国仏教通史』第一巻、鈴木学術財団、一九六八年三月
「(中国哲学における)認識論」『思想概論』大修館書店(中国文化叢書、二)、一九六八年四月
「竹林の七賢」『大唐の繁柴』世界文化社(世界歴史シリーズ、七)、一九六八年九月
「善の無心と荘子の無心」『善の本質と人間の眞理』(久松眞一・西谷啓治編)創文社、一九六九年八月
「大人賦の思想的系譜－辞賦の文筆と老荘の哲学」『東方学報(京都)』(四一)、一九七〇年四月
「易経(解釈・抄訳注)」『五経・論語』筑摩書房、一九七〇年九月
「道教における鏡と剣－その思想の源流」『東方学報(京都)』(四十五)、一九七三年九月
「現代中国における文化財保護」『文化財宝』(創刊号)、一九七四年五月
「仏教と道教・儒教 『仏教と民族宗教との習合現象について』」
仏教美術研究上野記念財園助成研究会、一九七五年三月
「昊天上帝と天皇大帝と元始天尊－儒教の最高神と道教の最高神」『中哲文学会報』(二)、

一九七六年六月
「通極論索引」『東方学報（京都）』（四九）、一九七七年二月
「『三教指帰』訳注」『最澄・空海』中央公論社、一九七七年五月
「空海における漢文の学－『三教指帰』の成立をめぐって」『最澄・空海』中央公論社、一九七七年五月
「三浦梅園と『荘子』と陶弘景」『国語の研究』（十）、大分大学国語国文学会、一九七七年五月
「墨子の思想と道教－中国古代思想における有神論の系譜」
吉岡博士還暦記念『道教研究論集』国書刊行会、一九七七年五月
「天皇と紫宮と眞人－中国古代の神道」『思想』岩波書店、一九七七年七月
「道家の気論と『准南子』の気」『気の思想』東京大学出版会、一九七八年三月
「儒仏道三教交渉における『気』の概念」『気の思想』東京大学出版会、一九七八年三月
「道教における天神の降臨授誡－その思想と信仰の源流」
福永光司編『中国中世の宗教と文化』京都大学人文科学研究所、一九八二年
「鬼道と神道と眞道と聖道－道教の思想史的研究」『思想』（六七五）、岩波書店、一九八〇年九月
「道教とは何か」『思想』（六）、一九八二年六月
〔中国語訳〕何謂道教　朱越利訳　世界宗教資料、一、一九八四年二月
「津田左右吉博士と道教－福井文雅氏の書評『道教と日本文化』に答えて一」『東方宗教』（六一）、一九八三年五月
「中国の芸術哲学」 講座美学『美学の歴史』東京大学出版会、一九八四年五月
「荘子における「眞」の哲学－中国儒教との関連において」『大地』（学習録三）、一九八四年六月
「記紀と道教」『国文学』（二十九巻十一号）、一九八四年九月
「『古事記』の「天地開闢」神話」『ユリイカ』（日本の神話）、一九八五年一月
「道教について－学生諸君の「道教とは何か」の問いに答える」『関西大学中国文学会紀要』（九）、一九八五年三月
「中国の自然観」『自然とコスモス』岩波書店（新・岩波講座、哲学五）、一九八五年七月
「古代信仰と道教」『神と人－古代信仰の源流－』（朝日カルチャーブックス）大阪書籍、一九八六年
「東洋文化における自然－習俗と宗教」）『宗教と文化』（共著、山折哲雄）（大谷大学）（二）、一九八八年三月
「仏教與道教－以漢訳『佛説無量寿経』為例」『世界宗教研究』、一九八八年三月
「道教と仏教－神学教義の相互影響」『東洋学術研究』、二七、一九八八年十一月
〔中国語訳〕道教与儒教－神学教義的互相影響－楊曽文訳　世界宗教資料、一、一九八九年三月
「儒教漢語と中国古典文化」『北九州大学大学院紀要』（創刊号）、一九八八年三月
「『おもろ』の創世神話と道教神学」『思想』（七七五）、岩波書店一九八九年一月

「史書にみる徐福の出航」『弥生の使者　徐福－稲作渡来と有明のみち－』同刊行会、一九八九年三月
「太白山和道教」（朱越利訳）『中国道教』、一九八九年第二期、一九八九年
「呉越文化と古代日本」『稲－その源流への道』東アジア文化交流史研究会、一九九〇年五月
「徐福と吉野ケ里遺跡の墳丘墓」『徐福伝説を探る』小学館、一九九〇年七月
「元気と病気」『中国古代の生命の哲学思想』（四月号）、一九九二年四月
〔中国語訳〕道教生命哲学及其在日本的影響　朱越利訳　哲学研究、四、一九九四年四月
「倭人と越人」『倭と越－日本文化の原郷を探る』東アジア文化交流史研究会、一九九三年五月
「常世と神仙」『弥生の王国－東アジアの海から－』東アジア文化交流史研究会、一九九三年五月
「神倦・楼閣・渦巻文　上・下」『東アジアの古代文化』（七十六・七十七号）、一九九三年夏号・秋号
「『倭人』と『倭国』と『倭奴国』」『倭人伝の道－久里双水古墳と邪馬台国－』東アジア文化交流史研究会、一九九四年十月
「『墓』の思想信仰」『福岡からアジアへ－かめ棺の源流を探る文明のクロスロードふくおか』、西日本新聞社、一九九五年二月
「文献から見た徐福の時代－徐福と金立神社と有明海」『弥生の夜明け－徐福学への発走－』東アジア文化交流振興協会、一九九五年五月
「唐津の地名とその思想信仰」『海の王国－東アジアの中の唐津－』東アジア文化交流史研究会、一九九五年九月
「古代日本と中国文化－『古事記』」神話の『生』と『死』を中心に」『国際文化研究所論叢』（十一）、二〇〇〇年七月
「道教と印刷文化」『印刷博物誌』凸版印刷、二〇〇一年六月

上記の略歴と業績表は、「福永光司先生を偲ぶ会」が編集した「福永光司先生略歴及び主要論著目録」に基づいてやや修正したものである。（福永拙さんから頂いた）紙面の関係で、書評・解説・月報・附録、講演記録・対談・シンポジウム筆録、その他（新聞寄稿など）類は割愛した。

「福永蔵書」の整理および目録作成において、私どもは福永先生が集めた自分の著作類を丹念に点検し、それらを「福永著作文庫」に収めた。その中から上記の「目録」に収まっていないものも多数発見された。

「文庫」のリストは下記のとおりである。（右端にある「未収」とは、「目録」にないものを指す。）

090　特殊コレクション　福永著作文庫（計 128 冊）

著書　18 冊（見つけた順）

荘子 福永光司著 東京 朝日新聞社　　1956、2（中国古典選 吉川幸次郎監修）著書類 1
荘子－古代中国の実存主義　福永光司著 東京　中央公論社　1964、3　（中公新書 36）　著書類 2
荘子 福永光司著 内篇　外篇　雑篇　東京　朝日新聞社 1966、4-1967、9　（新訂中国古典選 7-9) 著書類 3
荘子 福永光司著 内篇 雑篇・下　東京　朝日新聞社　1978　（中国古典選 12-17）著書類 3
老子 福永光司著　東京　朝日新聞社　1968、10　（新訂中国古典選 6）　著書類 4
老子 福永光司著　東京　朝日新聞社　1997、1（朝日選書 1009 中国古典選）　著書類 4
中国思想について　精神開発叢書 5　福永光司　富山県教育委員会　1969 3　著書類 5
芸術論集 福永光司著　東京　朝日新聞社 1971、9　（中国文明選 吉川幸次郎　小川環樹監修 14）　著書類 6
列子 福永光司訳注 1 2 東京　平凡社　1991、5-1991、6（東洋文庫 533、534）　著書類 7
列子 福永光司訳注 1 2 東京　平凡社　1991、5-1991、6（東洋文庫 533、534）（補訂用）
禅の本質と人間の真理 久松真一　西谷啓治編　東京　創文社　1969 8 著書類 8
老子 金谷治訳 荘子 倉石武四郎 関正郎訳 列子 福永光司訳 孫子 村山吉廣訳 呉子 金谷治訳 平凡社　1973、6　著書類 10
道教と日本思想 福永光司著　東京　徳間書店　1985、4 著書類 11
道教と古代日本 福永光司著　京都　人文書院　1987、2 著書類 12
道教思想史研究 福永光司著　東京　岩波書店　1987、9 著書類 13
中国の哲学・宗教・芸術 福永光司著　京都　人文書院　1988、9 著書類 15
道教と日本文化 福永光司著　京都　人文書院　1982、3 著書類 17
宗教を考える　八木誠一　福永光司　ひろさちや著　図書印刷株式会社　1997 年 11 月著書類 20

編著書物　計 24 冊

思想史 赤塚忠 金谷 福永 山井 編　東京　大修館書店　1967、10（中国文化叢書 3）編著 4
思想概論 赤塚忠 金谷治　福永光司　山井湧 編 東京　大修館書店　1968、4　（中国文化叢書 2) 編著 5
気の思想　中国における自然観と人間観の展開 小野沢精一　福永光司　山井湧編　東京　東京大学出版会 1978、3 編著 7
最澄 空海 福永光司責任編集　東京　中央公論社　1977、5　（日本の名著 3）　編著 8
最澄 空海 福永光司責任編集　東京　中央公論社　1983、6　（中公バックス 日本の名著 3）編著 8
道教と古代の天皇制 日本古代史・新考 福永光司［ほか］著 東京 徳間書店 1978、5 編著 9
中国中世の宗教と文化 福永光司編　京都　京都大学人文科学研究所　1982、3 編著 11
般若思想 平川彰［ほか］編集 梶山雄一［ほか］著　東京　春秋社　1983　編著 12
道教と東アジア　中国・朝鮮・日本 福永光司編 東アジア基層文化研究会［著］人文書院 1989、4 編著 13

中国宗教思想1　岩波書店 1990年(岩波講座東洋思想 福永光司など編第13 14巻)編著14
中国宗教思想2 岩波書店 1990年(岩波講座東洋思想 福永光司など編第13 14巻)編著15
佐藤一齊 相良亨 溝口雄三校注 大鹽中齊 福永光司校注 東京　岩波書店 1980 5 (日本思想大系 46)
美学の歴史 東京　東京大学出版会　1984、5 (講座美学 今道友信編 1)
自然とコスモス 坂本賢三[ほか]著 東京　岩波書店　1985、7 (新・岩波講座哲学 大森荘蔵[ほか]編
「馬」の文化と「船」の文化　古代日本と中国文化 福永光司著　京都　人文書院　1996、1 編著 30
肇論研究 塚本善隆編 京都　法蔵館　1955、9 (京都大學人文科學研究所研究報告)
神と人－古代信仰の源流　岩田慶治　松前健　水野正好　福永光司　岩井宏實　五来重著　大阪書籍　1986年3月
徐福伝説を探る　安志敏・福永光司など　著　1990年7月　小学館
宗教 源了圓 楊曾文編 東京　大修館書店　1996、7 (日中文化交流史叢書 中西進 周一良編 4)
文明のクロスロード九州～仏教の源流をたずねて～　九州曹洞宗青年会　1997年6月
岩波仏教辞典 中村元[ほか]編集 第2版 東京　岩波書店　2002、10
飲食男女　老荘思想入門 福永光司著 河合隼雄聞き手 東京　朝日出版社　2002、7
日本の道教遺跡を歩く 陰陽道・修験道のルーツもここにあった 福永光司など著 朝日新聞社　2003年(朝日選書 737)
老子 福永光司訳 荘子 福永光司 興膳宏訳 東京 筑摩書房　2004、5 (世界古典文学全集17)

学術論文掲載雑誌　計11冊

郭象の荘子解釈一・二　哲学研究、四二四・四二五、1一九五四年六・七月
司馬遷の人間観－主として利・義・天について－　東洋の社会と文化、三、一九五三年七月
三浦梅園と『荘子』と陶弘景　国語の研究、一〇、大分大学国語国文学会、一九七七年五月
荘子における「眞」の哲学－中国儒教との関連において一　大地、学習録三、一九八四年六月
記紀と道教　国文学、二九巻一一号、一九八四年九月
『古事記』の「天地開闢」神話　ユリイカ（日本の神話)、一九八五年一月
道教について－学生諸君の「道教とは何か」の問いに答える－関西大学中国文学会紀要九、一九八五年三月
呉越文化と古代日本　『稲－その源流への道』東アジア文化交流史研究会　一九九〇年五月
〔中国語訳〕道教生命哲学及其在日本的影響　朱越利訳　哲学研究　一九九四年四月
神倦・楼閣・渦巻文　上・下　東アジアの古代文化、七六・七七号、一九九三年夏号・秋号
中国語　从中国史書看徐福東渡　1990年　第7期　(未収)
古代合衆国・九州　アジアと結ぶ海　1991年11月　「古代九州」の国際交流 学術論文45

講演・対談・その他掲載雑誌　計75冊

第９回　日本海文化を考える富山シンポジウム　1993年10月　日本海沿岸の「馬」と「船」の道
日本文化と漢文　花伝　11月号　1992年　特集　文化・環境・貢献と日本文化
御製逍遙詠　昭和五十六年九月十四日
'95唐津フォーラム　海の王国―東アジアの中の唐津―　　唐津の地名とその思想信仰
東アジアの古代文化を考える大阪の会講演会資料　一九八六・七・一九　　藤ノ木古墳と道教
九州龍谷短期大学公開講座　昭和61年11月29日　仏教と道教―漢訳『無量寿経』の翻訳語を通して―
'94唐津文化フォーラム　倭人伝の道―久里双水古墳と邪馬台国　　「倭人」と「倭国」と「倭奴国」
1994年12月月刊文化財発掘出土情報　文明交流シンポジウム　地域フォーラム　時を超え重なる墓制　パネリスト
1994年12月月刊文化財発掘出土情報 大陸と海の交流 末盧国は輝いた'94唐津文化フォーラム　パネリスト
「三教指帰」2001年５月　詳解　12　1993年２月
シンポジウム古代豊前国の道教文化の謎をさぐる　　豊前国と中国の古代宗教史
第３回春日井シンポジウム1995年　　タオイズム（中国道教）から見た壬申の乱
平成５年度　第24回全国学校保健･学校医大会　大会記録　「保健」ということ―「生命」と「元氣」の中国哲学
大分県医学会雑誌第10巻１号　1991年６月　　医療の「技」と「道」
時空を越えて―孔子と現代―　1991年10月　道教としての儒教―孔子と宗教
'79天城シンポジウム記録　日本人とは何か　参加者
'80天城シンポジウム記録　日本と中国　参加者
'81天城シンポジウム記録　日本文化の明暗　参加者
津田左右吉博士と道教―福井文雅氏の書評『道教と日本文化』に答えて―東方宗教六十一号　昭和五十八年
東洋文化における自然―習俗と宗教　文化　第２輯　昭和六十三年三月
荘周の遊に就て　支那学第十二巻　第三・四号　昭和二十一年十一月刊　23
中国宗教思想史　岩波講座「東洋思想」第十三巻所収　一九九〇年四月刊行
〔対談筆録〕中国の政治・中国の古典　アジア・クォータリー、九－二、一九七七年六月講演
〔講演筆録〕老荘の思想　朝日ゼミナール、八二、一九七二年二月
〔講演筆録〕豊前の国と中国古代宗教文化－八幡信仰のルーツは中国である－郷土田川、三三、一九九〇年
〔対談筆録〕古代往来、倭と呉越『古代テクノポリスと呉越』東アジア文化交流史研究会、一九九二年五月
〔講演筆録〕馬の文化と船の文化　宮城経協会報、一九九二年六月会報、一九九二年六月

〔講演筆録〕生気の流れと壷　日本経絡学会誌、二一号、一九九三年
〔対談筆録〕明日香と道教　（季刊）明日香風、一六、一九九五年一〇月
宇佐八幡と道教－豊前国と中国古代の宗教文化－　北九州大学　昭和62年
４遥かなる歌垣の原郷－倭人と少数民族－　日中合同シンポジウム　大和書房　一九九三年四月（未収）
〔対談筆録〕呉越と倭国　『古代テクノポリスと呉越』東アジア文化交流史研究会、一九九二年五月（未収）
〔対談〕老荘哲学者福永光司が考えてきたこと　福永光司・永田力　すばる５月号　二〇〇二年（未収）
荘子　懐徳、三一、一九六〇年一〇月
荘子の哲学　精神開発室六九年度紀要、富山教育委員会、一九七〇年四月
無用の用　精神開発室七〇年度紀要、富山教育委員会、－九七一年一月
現代文明に警告する老荘の哲学　月刊エコノミスト、九月号、一九七三年九月
〔対談筆録〕今に受け継ぐ呉越の思想『呉越の風　筑紫の火』東アジア文化交流史研究会、一九九一年五月
「元気」の哲学　健康、一九七七年四月号、一九七七年四月
中国古代の神道と日本の神々　創造の世界、二六、小学館、一九七八年五月
山上憶良と病気　奈良朝期の道教医学－健康、一九七九年一月号、一九七九年一月
「木鶏」の哲学　木鶏、創刊号、太平洋公論社、一九七九年三月
記紀と道教　国文学、二九巻一一号、一九八四年九月
千利休『遺偈』の訓み方 中国学の一研究者として　淡交社（『淡交』別冊、二九）、一九九九年
佛教と道教－特に禅と浄土の場合　巻頭言　ブディスト　一九八六年　（未収）
「健康」という言葉　健康、一九八五年五月号、一九八五年五月（未収）
「古事記」と中国古代の薬学－健康、一九九〇年一月号、一九九〇年一月（未収）
「生命」という漢語－古代中国人の生と死の思想－　健康、一九九一年七月号、一九九一年七月（未収）
長寿と「柔弱」＝無量寿と「柔軟」　健康、一九八七年一月号、一九八七年一月（未収）
「病気」－気が病むということ－　健康、一九八八年五月号、一九八八年五月（未収）
余れ　宇宙の中に立ち　PHP　平成四年九月号、平成四年九月（未収）
「元気」の哲学　健康、一九七七年四月号、一九七七年四月（未収）
無用の用　人文　第二号　1971年　京都大学人文科学研究所
道教一元論者の弁　人文　第八号　1973年　京都大学人文科学研究所
西と東　人文　第二〇号　1979年　京都大学人文科学研究所
鬼道と神道と真道　人文　第二一号　1980年　京都大学人文科学研究所
道教とは何か　人文　第二六号　1982年京都大学人文科学研究所
愚公と智叟　中国語　1975年　大修館書店
稲荷山鉄剣の「七月中」　歴史と人物　昭和五十九年　中央公論社
倭人と越人　倭と越　日本文化の原郷をさぐる　1992年　東アジア文化交流史研究会

道教と日本の宗教思想　上下　福永光司著　中外日報　平成４年
道教と八幡大神　中外日報　1990年１月１日
砂中の回廊　朝日新聞朝刊連載１～339　平成11年９月９日～平成12年８月21日
天寿国繍帳の曼荼羅図　関西大学通信152号　1996年２月１日
探求・日本の道教遺跡　朝日新聞　11回連載　1986年１月25日～1986年11月26日
ＯＢＳ創立40周年記念講演会「こころの時代をどう生きるか」　ＯＢＳ大分放送（豊　第11号）　1993年３月19日
銅の文化の伝来と豊の国　三毛の文化　第12号　平成元年10月20日
道教における鏡と剣　『東方学報』京都第45冊　昭和48年９月刊行
タオイズムの風　第１回～第43回　中日新聞日曜版　1994年９月11日～1995年９月24日
混沌を生き抜くタオイズム　西日本新聞夕刊　1999年３月16日
ミレニアムと終末論　西日本新聞　2000年11月７日
トルストイのみた"老子"　朝日新聞夕刊　1998年11月13日
ふるさとわがまち　大分合同新聞朝刊　1999年10月４日
いのちの哲学「老荘」に学ぶ　まなびとぴあ第38号　2001年２月１日
トルストイと道教　致知1998年５月号

両者対照すれば、福永先生の幅広い学問研究業績全貌をつかむことができよう。

二、蔵書整理までの経緯

2001年12月福永先生が亡くなられた。その後、奥様の啓子さんも相次いでこの世を去った。福永先生には二人の子女がおられる。長女の桂子さんは外国語が堪能で、翻訳家でもあり、東京在住。長男の拙（つたな）さんは医学の道に進み、整形外科医になり、いま大分県内の別府発達医療センターの院長を勤めて、大分市内に在住。

福永光司先生は 1986 年福岡県北九州市内にある北九州大学外国語学部教授に就任してから、住居を京都市内の北白川から古里の大分県中津市の鶴居にある福永旧邸（生家）に移した。2005年、ご遺族より福永先生の蔵書（約２万冊、以下「福永蔵書」と称す）と晩年暮らしていた旧邸と一緒に中津市に寄贈された。

福永旧邸は現在、中津市の福祉施設「ややま園」の「福永分場」（15名の作業所）に改築し活用されている。

福永蔵書は中津市立小幡記念図書館に運ばれたが、しかし、当初から書物の整理に困難が極めた。

まず、小幡記念図書館はすでに書物でいっぱいで、いきなり２万冊の書物を置くスペースが無かった。

そして、蔵書は、福永先生が生前使用便利のために、或る程度まとめて本棚に置いていたもので、特に分類などはしていなかった。それらの書物はどんなものがあるのか、どのぐらいの価値があるのかは、全く分からない状態にあった。しかも、その中には書物に数えられない写真アルバム、書簡、ノート、カード、抜き刷り、ビデオテープ、文献複写フィルム、五万分の一地図（コピー）などがたくさんあった。

もちろん、福永先生は中国思想史の研究家であったので、その蔵書は専門性が高いと推測できる。しかし、中津市は大分県の最北部に位置し、郷土では福沢諭吉をはじめ、著名人が輩出していたが、高等教育機関が無く、中国学、特に思想史研究方面に深い造詣を持つ人材もいなかった。

したがって、2006年7月中津市教育委員会と市立小幡記念図書館から、福永蔵書の整理と目録作りを大分県文化財保存協議会の会長で、大分大学名誉教授、放送大学大分センター長、福永先生と同じく京都大学（東洋史学専攻）出身の神戸輝夫と、大分県立芸術文化短期大学助教授で、福永光司先生の専門に極めて近い中国哲学史研究者の鄧紅に依頼した。それで神戸輝夫が代表して中津市と福永蔵書委託事業の契約を行い、蔵書整理作業を開始する運びになった。さらに鄧紅は、図書分類の専門家である大分県立芸術文化短期大学図書館の司書秦みつよ（高知大学人文学部卒業、歴史学専攻）に応援を要請した。

このようにして福永蔵書の整理は、神戸、鄧、秦三人体制で発足したのである。この三名は大分市から約70キロの中津市に通い、学生等の支援を得て先ず蔵書整理を行い、その後蔵書目録作りを行った。

三、福永蔵書の分類

福永蔵書は2005年中津市小幡図書館に寄贈された当初、適当な置き場所がなかったので、とりあえず教育委員会のプレハブ倉庫に収納されたが、倉庫は通気性が悪く、漢籍などは現状での長期保管は憂慮される状態にあった。

上記三人による蔵書整理の方針が決まった段階で、2006年7月28日、福永蔵書は中津市立南部小学校の三階の未使用の二つの教室に移され、教室を利用して整理用のスペースが確保できた。

本の整理はまず分類から始まった。

まず、中国語の書籍（漢籍、日本漢籍を含む）をA教室に運び、それぞれの本棚にまとめた結果、次のように分類ができた。

中国語部分全部　計4,299点

中　総目（辞典、目録　索引類）　計172冊
中　080　叢書・国学基本図書、四部叢刊　計534冊
中　122　中国哲学　計284冊
中　169　道家・道教（《道蔵》を含む）　計585冊
中　其他宗教　計20冊
中　180　佛　教　計145冊中
**　　220　東洋史　計533冊**
中　220　考古学　計38冊
中　290　地　理　計70冊
中　380　民俗学　計47冊
中　720　美術史・絵画　計74冊
中　728　書　法　計36冊

中　920　中国文学　計434冊
　　漢　　籍　計997種（冊数未確認）
　　経　　部　計55函
　　史　　部　計520函
　　子　　部　計208函
　　集　　部　計214函
　　日本漢籍　計116種（冊数未確認）
　　洋　　書　計214冊

日本語の書籍はB教室にまとめ、次のように分類ができた。

日本語部分全部　計6,600冊
　総目（辞書、索引、書目）　計296冊
　　福永手づくり索引・目録　計70冊
　　060　団体（東大、岩波書店など）史学校史、出版社史　計24冊
　　080　全集個人全集（計434冊）　テーマ別　計597冊
　　080または081　文庫本　東洋文庫計45冊
　　080または081　新書　新書と文庫本計1,052冊
　　090　特殊コレクション　福永著作文庫（計128冊）
　　100　哲学（計346冊）
　　東洋思想（計16冊）
　　121　日本思想（計56冊）
　　122　中国哲学（計320冊）
　　123～125　中国古典（計132冊）
　　169　他の新興宗教・道教（計84冊）
　　170　神道（計39冊）
　　180　仏教（計400冊）
　　210　日本史・考古学（計183冊）
　　伝記1～（計75冊）
　　211～219　郷土史（計418冊）
　　219　9沖縄文化史其他（計51冊）
　　220　東洋史・アジア史　東洋史（計251冊）
　　中国文化（計192冊）
　　アジア史（計13冊）
　　221　韓国史（計23冊）
　　230～280　世界史（計28冊）
　　290　地理（計15冊）
　　310　政治（計15冊）
　　320　法律（計15冊）

370　教育（計10冊）
380　日本文化・民俗学・人類学　（計185冊）
梅原猛著書（計35冊）
400　自然科学（計62冊）
心理学　（計18冊）
490　医学（計34冊）
702　美術史（計307冊）
800～890　語学類（計36冊）
910　日本文学（計336冊）
920　中国文学（計183冊）
930～990　西洋文学（計55冊）

雑誌類計3,663冊
中国語雑誌　計1,494冊
日本語雑誌　計2,169冊

以上の分類項目に従って、本棚の一枠一枠につき、本の数も確認して、項目を本棚の上に明記しておくことにした。

各種雑多な雑誌類等は廊下にダンボール箱にまとめて、「中国語出版」と「日本語出版」のものに分類した。

なお、アルバム類、テープ類、書簡類、各研究者からの抜刷、非公開出版物および文房用具などは、一応チェックした上で、家族（福永拙さん）の同意を得て廃棄処分にする方針を作り、最終的判断を中津市教育委員会に委ねた。

四、目録の作成

整理、分類が終わって、福永蔵書目録の作成に取り組んだ。とりあえず、目録作成の原則を次のように定めた。

（1）目録は次の５項目を入力すること。
　A、書名；B、著者（編著者、訳者など）；C、出版社；D、出版年；E、サイズ
（2）漢籍類は、中国古典の四庫全書分類法に従い、経、子、史、集、叢書に分類すること。
（3）中国語書籍の書名の漢字は、将来出版をちなんで、すべて日本漢字に統一すること。
（4）ワード文書で入力すること。

目録の作成に当たって、大分県立芸術文化短期大学国際文化学科2006年度「中国文化研究」卒業ゼミ（指導教官鄧紅）の学生に応援を求め、石井美登里、梶原舞子、柴田明日香、徳丸吉枝、楢原真琴五人の承諾を得た。そして「福永蔵書目録」の作成を彼女たちの卒業研究とすることにした。

中国語の書籍は日本の図書館では見られないものが多いと考え、その部分の入力は手作業ことにした。つまり、一冊一冊の本を開いて、その書名、著者（編著者、訳者など）、出

版社、出版年を確認し、本のサイズを測ってから、パソコンに入力する作業を行った。中国語部分の作業は主に神戸輝夫が担当した。アシスタントとして「歴史と自然を学ぶ会」会員平出淑江氏の助力を得た。

日本の部分は当初手作業にしたが、あまりにも書籍が多く入力作業に手間がかかり、スピードが遅いので、他の方法に拠る作業方法を考えた末、最新の入力方法を開発した。その方法は、次の通りである。

まず、本棚に置いてある書籍をもう一度きれいに揃えて並べ、背表紙が見えるようにする。

次に、デジタルカメラで一棚一棚毎に撮影する。それらのデータ（写真）を大分に持ち帰って、パソコンで再現する。

そして、日本国会図書館のホームページを開いて、一冊一冊の本の書名、あるいは著者名を、国立国会図書館蔵書検索・申込システム NDL － OPAC に入力すると、その本に関するデータが全部出てくる。その中の必要なデータをコピーして、目録に貼り付ける。

もちろん、写真で写せないものがあるし不鮮明なものもある。それらをもう一度現場に行って、確認を行い手作業で入力する。

最後に、入力したデータを現場に持ち込み、現物と照合する。

日本語部分の入力作業は鄧紅および「中国文化研究ゼミ」の卒業生石井美登里、梶原舞子、柴田明日香、徳丸吉枝、楢原真琴が担当した。

秦みつよは主に新書、文庫本部分の入力および雑誌の整理と入力などを担当した。

以上の作業を 2006 年 8 月初めから開始して 2007 年 1 月末に総ての書物の入力と書物以外の物品の整理を終えた。入力された蔵書データの最終編集は大分県立芸術文化短期大学中国学研究室（鄧紅研究室）において行った。

五、福永蔵書の特徴

「福永蔵書」は下記の特徴がある。

1、漢籍類について

上記のとおり、福永蔵書に 1000 点以上の中国の漢籍があり、日本漢籍も 100 種に上る。それらの漢籍の構成は実にさまざまである。貴重なもの、たとえば、『欽定二十四史（百衲本)』（上海華商集成図書公司、光緒丁未六月版）全第六十帙が揃っている。また、

史通削繁　四巻（一帙四本）　紀昀撰　　粤東省城翰墨園蔵板　　道光十三年冬

百五十家評註史記　一三〇巻（前函　後函）　　上海文瑞樓印行　鴻章書局石印

前漢書　重刻殿本　一〇〇巻全四函　（漢）班固撰　（唐）顔師胡注 同治十年成都書局刊

といった貴重本がある。

また、漢籍の中で「福永コピー装丁本」が非常に目立つ。

「福永コピー装丁本」とは、福永先生は各時代にわたって漢籍をたくさんコピーして、自分で装丁して箱入りしたものを、登録上では「福永コピー装丁本」と明記したものである。1940、50 年代から集め始めたせいか、その時代に現代的コピー術いまだ発達していないため、俗「青焼き」といったブループリントで、普通の本より倍以上重たいコピー本が多かった。

2、総記類（辞典、目録、索引類）が多いこと

「福永蔵書」には、中国語の総記類計172冊、日本語の総記類計338冊、福永手づくり索引・目録計80冊、総計590冊がある。数の多さは、一般の中型図書館に匹敵する。

そして、福永先生が自分でつくったものが多かったので、「福永手づくり索引・目録」という特別項目を設けた。「福永手づくり索引・目録」の作りは大方下記の手法によるとみられる。

（1）手書き。たとえば、大学のノートに手書きして、「郭象荘子注（Ⅰ）」、「郭象荘子注（Ⅱ）」、「張湛列子注（全）」が作られた。福永先生の文章によると、これらの一部分は1950年代前半、京都から愛知県岡崎市にある愛知学芸大学への単身赴任に通う列車の中で作られたものではないかと、推察できる。

（2）コピー。たとえば、「図書寮漢籍善本書目（子部・集部）道蔵経（子部巻末）（佐伯毛利家献上本・コピー）」がある。

（3）昔の勉強資料として「唐代史研究文献類目、中谷英雄編、昭和三十一年、宮崎（市定）研究室プリント」などがある。

3、全集書物が多いこと

まず、先生の専門が道教研究であるので、『道蔵』が欠かせない。道蔵関係の全集ものには、

正統道蔵（藍）389冊（全400、第53、244-253冊欠）芸文印書館景印　1962年　17
正統道蔵（緑）全60冊、芸文印書館、1977年　20
正統道蔵（緑）目録一冊、施博爾編、芸文印書館、1977年　20
道蔵輯要考（茶色）全25冊　考正出版社　1977年　25
道蔵気功要集（上下）洪丕謨編　上海書店1991年　25
道蔵提要　任継愈主編　中国社会科学出版社1991年　19
道藏源流續攷　陳國符撰　台北明文書局，1983年 21

等がある。ちなみに、『正統道蔵（藍）』400冊（約1,200巻）の中で、福永先生が自ら赤い点を打ったものが多かった。先生は東京大学在任中の五年間、『道蔵』読破という決意を示して、結局半分まで読み進んだという話はあったが、これらの赤い点はその裏付けになるものであろう。

また、次のような全集ものもある。

四部叢刊初編縮本（全440冊）
国学基本叢書　台湾商務印書館　130冊
本居宣長全集（全23冊）大野晋・大久保正編集校訂　筑摩書房　1968年　23
新修平田篤胤全集（全15巻・補遺5巻）（欠1、3巻、別巻）名著出版　1977年　22
定本西鶴全集（全15冊）井原西鶴著　頴原退・暉峻康隆・野間光辰編　中央公論社　22
現代語訳西鶴全集（全12冊）現代語譯西鶴全集　河出書房　1952年　19
福澤諭吉全集（全21巻・別巻）慶応義塾編　岩波書店1958年　22
岡倉天心全集（全8巻・別巻）平凡社　1980年　22
鈴木大拙全集（全30巻・別巻2巻）　久松真一他編　岩波書店　1968-1971年　22

田邊元全集（全15巻）西谷啓治他編　筑摩書房　1963年　23
堺利彦全集（全6冊）川口武彦編　法律文化社　19799年　20
三木清全集（全20冊）岩波書店　1966年　20
野田又夫著作集（全5巻）白水社　1981年　23
上山春平著作集（全10巻）法蔵館　1996年　22
佐野学著作集（全5冊）佐野学著作集刊行会編　佐野学著作集刊行会　1957年　22
津田左右吉全集（28冊、別巻5冊、計32冊）第9巻欠　岩波書店　1963年　22
久米邦武歴史著作集（全5巻、別巻）(欠別巻) 大久保利謙他編纂 吉川弘文館 1988年　22
久米博士九十年回顧録（上下）2冊　中野礼次郎等編 早稲田大学出版部　昭和9年　23
内藤湖南全集（全14巻）筑摩書房 1970年　23
桑原隲蔵全集（全5巻、別冊）岩波書店 1968年　22
青木正兒全集（全10冊）春秋社 1969年　23
吉川幸次郎全集（全27巻）第25巻，26巻、27巻のみ存　筑摩書房　1984年　22
吉川幸次郎遺稿集（全3冊）第1巻のみ存　筑摩書房　1995年　22
折口信夫全集（全30冊、別冊）第25巻，26巻欠　折口信夫全集刊行会編 中央公論社 1995年 20
漱石全集（全28巻、別巻）岩波書店 1965年　23
漱石全集（全19巻）第九巻欠　漱石全集刊行会　角川書店 1960年 19
露伴全集（全41巻、別冊上下、付録1巻　計44冊）幸田露伴著　岩波書店　1954年　19
鴎外全集　第11巻，第13巻，第14巻，第22巻のみ存　岩波書店 1971年　23
芥川龍之介全集（全10巻）岩波書店 1954年　18
荷風全集（全29巻）岩波書店　1963年から　20
蘆花全集（全20巻）蘆花全集刊行会　1928-1930年 20
木下順二集（全16巻）欠第1巻，3巻，7巻　江藤文夫他編纂 岩波書店　1988年　20
群書類従（1-29冊、正続）　塙保己一編　続群書類従完成會 1959年　19
萬葉集（全4冊）小島憲之，木下正俊，佐竹昭広校注・訳 (日本古典文学全集 2-5)　小学館 1971年 23
新岩波講座・哲学（全16冊）大森荘蔵他編 岩波書店 1985年　22
岩波講座倫理学（全15冊）岩波書店 1940-1941年 21
日本の古代（全15冊、別巻）中央公論社　1985年 21

4、幅広いこと

「福永蔵書」に、西洋哲学類計361冊、美術史307冊、中国文学（中国語）計434冊などがあり、先生の研究の広さと深さが示されている。

一方、日本文化研究の専門家として、日本の歴史と文化に関する書籍があまり少なすぎる。日本史（伝記・考古学を含む）わずか183冊、日本文化・民俗学・人類学方面はわずか185冊ある。その理由ははっきり分からない。

結　語

「福永光司蔵書目録」の原稿は2007年２月に完成して、中津市教育委員会に上納した。2007年度中に当教育委員会から上梓される予定である。

その後の３月末、目録作成に携わった大分県立芸術文化短期大学「中国文化研究ゼミ」の学生石井美登里、梶原舞子、柴田明日香、徳丸吉枝、楢原真琴は無事に卒業して就職し、いま立派な社会人になっている。

秦みつよは2007年３月31日大分県立芸術文化短期大学図書館をめでたく退職して、５月に盛大な結婚式を挙げ、いま関東地方で幸せな生活を送っている。

また、2007年９月９月22日（土）午後、大分県立芸術文化短期大学主催、中津市共催、中津市教育委員会後援で「大分県立芸術文化短期大学公開講座in中津、故福永光司先生その人その事跡について」が中津市小幡記念図書館のホールで開催された。鄧紅は「福永光司先生その人その事跡について」、神戸輝夫は「福永光司先生の蔵書について」それぞれ講演を行った。中津市教育長をはじめ、中津市民50名が受講した。

半年余りの蔵書整理と目録作業において、中津市南部小学校の教職員の皆さんや、教育委員会の職員の皆さんの温かい支援があった。ここに記して感謝いたします。

2007年２月初稿
2007年11月完成